

京まち工房



SPRING
情報交流誌

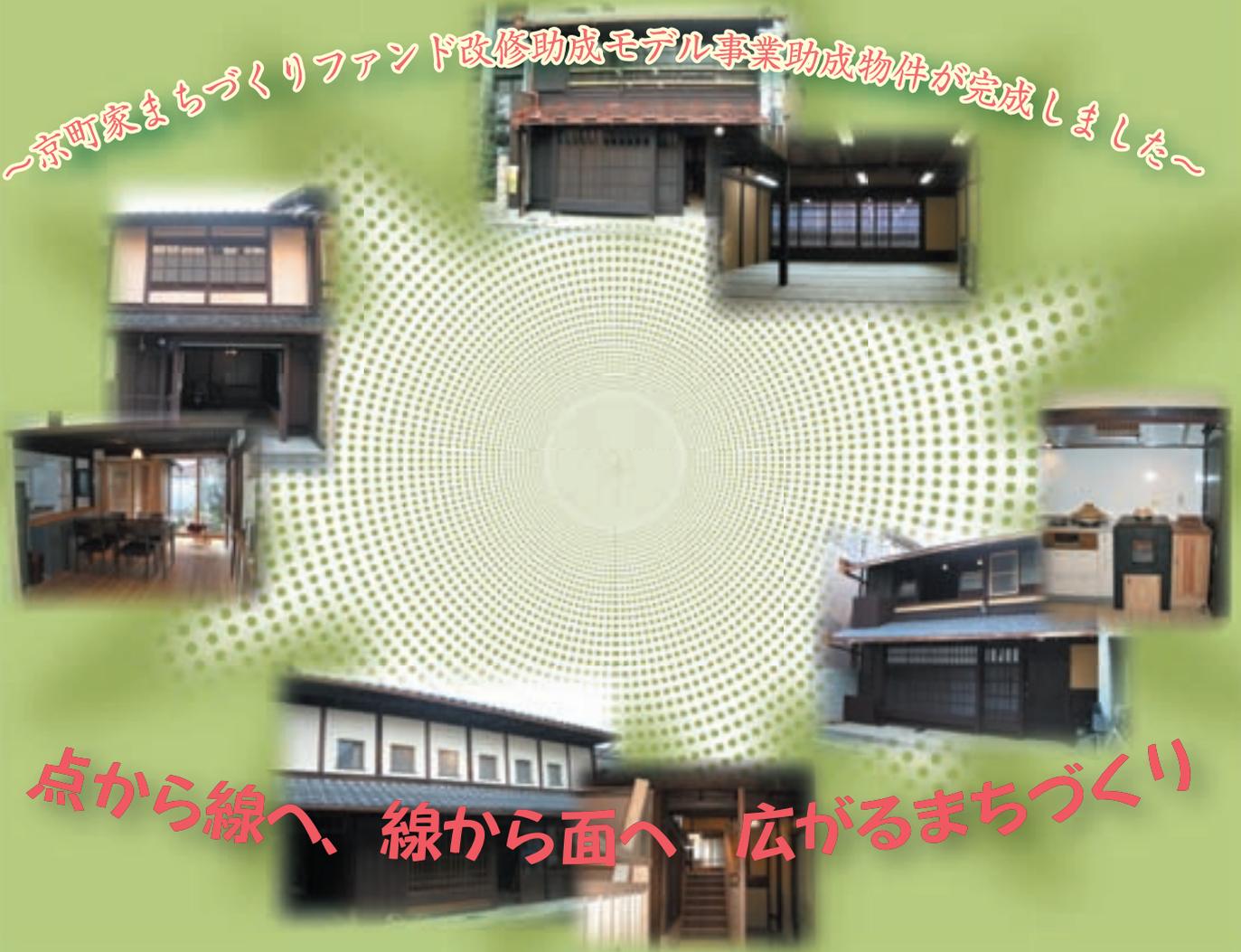
no.

38

(財)京都市景観・まちづくりセンター ニュースレター

パートナーシップで進めるまちづくり

～京町家まちづくりファンド改修助成モデル事業助成物件が完成しました～



点から線へ、線から面へ 広がるまちづくり

前2号は、「人と人とのつながり」をテーマとしてニュースレターを構成してきましたが、地域まちづくりというものは、点であったものが何らかのきっかけで「つながる」ことによって、初めて輪が広がっていくものではないでしょうか。

今回紹介している「京町家まちづくりファンド助成事業」により完成した物件の一つも、そのきっかけづくりの一端を担う事例の一つとなると思います。例えば「食」を通じた子どもたちへの教育、交流の場として活用したいという思いと、参加される親子や地域の方々との交流は、新たな地域の活性化につながる可能性を秘めています。センターとしても、このような取組を応援していきたいと思っています。

さて、来年度センター設立10周年という節目を迎えるに

当たり、センターの果たす役割とは何か、ということをもう一度問い直す時期にきています。一人ひとりの力では限界もありますが、まちづくりの輪を点から線、線から面へ広げていくための潤滑油となるセンターの役割が改めて問われています。

また、2月18日に開催された京都創生景観シンポジウムでは、分科会形式の意見交換を行い、市民だけでなく事業者の方にもパネリストとして参加していただき、活発な議論が交わされました。色々な立場の方が集い、新たな交流を生み出すことも、センターの使命です。今回の成果を含め、着実に「面」へと結びつけるきっかけづくりを行っていききたいと思います。

京都創生景観シンポジウム

通りが舞台 人が行き交う 京のまち

京都のまちでは、従来から「通り」が人々の交流の場、いわば「生活の舞台」の機能を果たしてきました。今回は、地域のコミュニティ活動の場として中心的な役割を担ってきた「通り」に焦点を当て、平成19年2月18日(日)、京都創生景観シンポジウム「通りが舞台 人が行き交う 京のまち」と題して、今年度第2回目となる景観・まちづくりシンポジウム及び企画展示を開催しました。

序として、「通り」を舞台に長い歴史を重ねてきた祇園祭や、京都のまちなみの今昔の写真を映し出しながら、財団法人祇園祭船鉾保存会の囃子方の皆さんに祇園囃子を生演奏していただきました。



祇園囃子の演奏

●第一部 基調講演

「来たるべき京の姿～かわらないもの、かわりゆくもの～」

吉田孝次郎氏(無名舎主、財団法人祇園祭山鉾連合会副理事長)

吉田孝次郎さんは、祇園祭の北観音山を出す六角町にお住まいになり、財団法人祇園祭山鉾連合会副理事長をお務めになる傍ら、お住まいの京町家を無名舎と名付けて公開しておられます。

吉田氏には、「来たるべき京の姿～かわらないもの、かわ

りゆくもの～」と銘打って、京町家やまちなみのスライドを交えながら、生家の看板建築を取り外し、京町家へと改修・復元し、公開されるようになった経緯など、まちなみやそれを支える祭りや商人文化などについて、一般論ではない、実際にご自身として考え、してこられたことについて、基調講演をしていただきました。

お話の中で、「今までは、行政が何も援助しない、まちの人全体が協力しあうということがない、などということを実に、まちなみを守るための自分自身の努力を怠りがちではなかったか」と述べられました。その上で「人一人ハ大切ナリ」という新島襄の言葉を引用しながら、「人一人の行為が積み重なり、祇園祭の維持や発展、伝統の継承がなされてきたように、京都のまちなみについても、個々人の努力や頑張りもなくしてはつくることができない」と、市民個々人の努力の大切さについて訴えられました。

同様に、石門心学の思想体系が表現された「程の良き」という言葉から、頑固や偏屈になり過ぎたりせず、それぞれの主張や価値観を認めながらも、それはそれとして、もうひとつ大きな価値観を持っておく必要性や、「堪忍」という言葉を用いて、他人様の立場を立てながら、自分の立場をやや控えつつ、商売をしていくことで商売が成り立つといった、地域が持っている思想や文化



吉田氏基調講演

について話され、現代においても個々人が少しずつこらえて、人の立場を思いやる慈悲深さが大切であるとまとめられました。

● 京都創生景観シンポジウム関連企画展示 「通りが舞台 人が行き交う 京のまち」 ●

2月15日から28日まで、「ひと・まち交流館 京都」の1階作品展示コーナー及び地下1階交流サロンにおいて「通りが舞台 人が行き交う 京のまち」の企画展示を開催しました。

近年の様々な都市としてのうねりの中で、地域では新しい地域課題に対応していくため、市民の主体的な動きが非常に活発になってきています。また、京都市では京都創生事業に取り組み、50年後、100年後の京都の将来を見据えた新たな景観政策により、都市計画行政の歴史的な転換期を迎えようとしています。

京都のまちの将来像、景観のあり方が、市民一人ひとりの問題としてクローズアップされている現在、今回の企画展示では、人々が通りを行き交っていたころの京のまちの姿を振り返り、通りを舞台に繰り広げられる市民の主体的で特色ある現在進行形の活動にスポットを当てて開催しました。

1階作品展示コーナーでは、油小路通の「本能のまちに咲くのれんの華」展として、平成18年11月11日、12日に開催された「おいでやす染のまち本能」(今年度は全国都市再生モデル調査事業の一環として実施)のイベントの様子(ニューズレター第37号p.7で紹介)や本能まちづくり委員会の活動、職人の技術の紹介、染めの道具の展示、油小路通沿いや三条通沿いの家々を彩った古代色ののれんの展示を行い、訪れる人々に楽しんでいただきました。



「本能のまちに咲くのれんの華」展

地下1階交流サロンでは、三条通歩行者天国化による交通社会実験「サンコバ・ストリートフェスタ」(主催:サンコバ・ストリートフェスタ実行委員会)、新しいまちなかの夜の景観を演出する「三条あかり景色」(主催:楽洛まちなかぶら会)、元立誠小学校・高瀬川のライトアップによる繁華街の魅力の発信(主催:立誠まちづくり委員会)、町家や伝統的建築物などの「暮らし」ある内部からの明かりでまちなみを彩る「都ライト」(主催:都ライト実行委員会)など、通りを舞台に市民が主体となった特色ある活動をパネルや模型を使って展示しました。



地下1階 交流サロンの展示

また、シンポジウムの分科会に関連して、都心部のまちづくりにつながることを目指すモデル的な住宅像を構築するために実施した「京都まちなかこだわり住宅」設計コンペ(今号p.8で紹介)での入選作品の展示や、当センターの京町家まちづくりファンドモデル事業で今年度完成した助成物件の紹介も行いました。

そのほか、ペーパークラフトで作成した京町家や共同住宅の立体模型を並べ替えて自由にまちなみをつくり、京都の通り景観を身近に考えることができる展示の工夫も行いました。

今回の企画展示は、豊かな交流が生まれる京都の未来像を探る手がかりになったのではないのでしょうか。

●第二部

まちなかの通り景観は、通りに建ち並ぶ建物や通りを舞台にした地域住民の交流など、様々な要素に左右されます。分科会では、各テーマに沿って参加者の皆さんと語り合い、これからの景観やまちづくりのあり方を模索しました。

分科会 I

京町家を受け渡す家族のかたち、地域のかたち

分科会 I では、進行役の京都府立大学助教授の宗田好史さんに、京都市の世帯動向を踏まえつつ、町家に住む家族、町家を取り巻く地域に注目し、町家の継承についてお話いただきました。中京区では1人世帯が5割を占め、高齢の単身世帯が増加しているとのこと。町家を残していくことの難しさに、こうした家族のかたちの変化が関係していると指摘されました。ゲストスピーカーの井上一さんは、平樂寺書店を家族で受け継がれています。山田公子さんは、京町家友の会の事務局をされており、ご自身も町家にお住まいです。井上さんも山田さんも京都を離れ、東京で生活をされていました。その後、家業の継承、町家を残したいという家族の熱意、京都に残る家族のために京都に戻られ、町家を受け継がれています。お二人には、町家における幼少期の良き思い出、そしてその思いを受けとめてくれる家族に恵まれたということをお話いただきました。また、家のまわりを掃除したり、家の前に趣味の花を飾ったりすることで、会話が生まれ、新たな地域のつながりが生まれているそうです。町家を残していくためには、家族のつながりを結び、そして地域のつながりを結びつけて、町全体で町家を受け継いでいくことが重要であることを示唆されました。



分科会 I の様子

分科会 II

時代を創る 京都まちなか住宅

分科会 II では、京都大学大学院教授の高田光雄さんを進行役として、都市居住推進研究会や旭化成ホームズ、三井ホームなど事業者の方から京都のまちなかにあった住まいや暮らし方のご提案をいただき、会場の参加者を交えながら、京都のまちなかにどのような戸建住宅がふさわしいかを話し合いました。

都市居住推進研究会からは「京都まちなかこだわり住宅」(今号 p.8 で紹介) の設計コンペからモデルハウス建設までの取組を、旭化成ホームズからはまちなかの敷地形状に合い、高い安全性能をベースに光、風、緑などの自然を取り入れるコンセプトの「K-style」とそのモデルハウスについて、三井ホームからは京町家の外観をツーバイフォーで再現した「新・町家」や相国寺門前町の建売プロジェクトなどを紹介いただきました。

参加者からは、周辺との調和は取れていないなど厳しいご意見もあり、いずれも苦労を重ねた活動ながら、住宅供給の産業の仕組みと生活文化の維持発展の間にはまだまだ大きなギャップがあり、ユーザー、事業者双方ともこのギャップを埋める仕組みが必要だとの認識を新たにしました。



旭化成ホームズ北山街角展示場



三井ホームの「新・町家」

分科会 III

地域の祭りを支える住民交流

分科会 III では、奈良女子大学教授の増井正哉さんを進行役として、地域で祭りや住民交流を支えておられる4名の方をゲストとしてお招きしました。

赤井又三郎さんは、鯉山町のマンション住民のお立場から、ご自身が鯉山友の会を通して、徐々に地域に溶け込み、信頼を得て、祇園祭の行事役や鯉山保存会に加入するに至った経緯など、マンション住民から積極的に地域と関わっていくことについてお話されました。

城野充さんは、蟻螂山町のマンションにお住まいになり、蟻螂山保存会の会長をされているご経験から、マンションに設置された町内諸施設や、マンション住民の自治会や保存会への加入等による住民交流が進んでいる一方で、マンション住民は職住分離のため、継続的に地域と関わる事ができるかが今後の課題であると指摘されました。

長江治男さんは、船鉾町の地元住民のお立場から、マンション住民と協調していきたいものの、町内会や保存会に加入していても、世代や意識の違いやプライバシーの問題でマンション住民との接点が少ないなど、住民交流のご苦労や難しさについてお話いただきました。

河野泰さんは、明倫まちづくり委員会やコンサルティングなどで、地域の情報を広く耳にするというお立場から、明倫学区における地区計画の取組等、地域での様々な活動の現状を踏まえて、まちづくりのイメージの共有化には時間がかかることを指摘されました。

最後に増井さんから、様々な地域の事例紹介があり、祭りがあるということが前提となって、まちなみが形成されていることや、住民同士がまちなみづくりにつながる共通の認識を持つうえで、祭りがあることの意識は大きいことなどのまとめをいただきました。

市民の力で歴史都市・京都の創生を

京都市総合企画局京都創生推進室

京都の魅力

いよいよ京都も春本番、国内外から多くの皆さんが京都にお越しになる季節を迎えます。こうした皆さんが京都に求められるものには、美しい自然景観や歴史的なまちなみ、伝統文化やこれを支える伝統の技など様々なものがあると思われまます。

京都は、山紫水明の美しさに加え、日本文化の中核として、宗教、茶道・華道などの本山、家元が発信する精神文化、京焼・清水焼、西陣織をはじめとする伝統工芸品、能・狂言をはじめとする伝統芸能など、あらゆる分野において、古今幾多の人々を魅了し続けてきました。京都の歴史や文化、景観は日本の財産であり、世界の宝ともいえ、これらを守り、育て、未来に引き継ぐことは我々京都市民に課せられた使命であります。

京都創生の取組

しかしながら、高度成長期からバブル期を経て現在に至る過程で、急激に進んだ都市化や近代化、グローバル化の影響により、京都の美しい景観や伝統文化も危機に瀕しており、このままではいずれ京都の特性はなくなりかねません。こうした中、京都市では、平成15年6月に京都創生懇談会（座長：梅原猛氏）から「国家戦略としての京都創生」の提言を受け、京都の景観、文化を守り観光を通じて世界に発信する「京都創生」の取組を、市をあげて進めることとなりました。

今回、皆さんにお示しいたしました、全市街地に及ぶ建築物の高さの引き下げやきめ細かなデザイン基準の策定、歴史的な建築物の保全などの「新しい都市景観政策」もこの一環として実施するものです。文化面では、文化芸術都市創生計画を策定し、京都の伝統文化の継承や新たな文化の創造を目指しております。観光面においても、本物の京都を知り、体験していただく「京都おこしやす大学」など多彩な取組を展開しているところです。

京都創生推進フォーラム

京都市では、昨年11月に今後の京都創生の取組を「歴史都市・京都創生策Ⅱ」としてまとめ、国の戦略として京都創生に取り組んでいただくよう提言・要望しているところですが、やはり、京都の自然やまちなみ、文化を



守り、未来に引き継いでいく真の担い手は、何よりも一人ひとりの京都市民の皆さんです。市民自らが京都の持つ価値を正しく認識し、まずは身近なことから、具体的な行動を起こしていただくことが、京都創生の実現につながります。

既に、京町家の保全・再生の取組や祭りをはじめとする地域の伝統文化を守る取組など、様々な活動が続けられておりますが、こうした取組が、今後、京都のまち全体に広がっていくことで、京都は一層輝きを増すこととなるでしょう。

平成17年6月には、京都創生の趣旨に賛同し、景観・文化・観光などの分野で取組を進めていこうとする団体、企業、市民などが集い、京都創生の活動の輪を広げるために、村田純一京都商工会議所会頭を代表に、「京都創生推進フォーラム」が設立されました。現在、500近い団体、企業、個人の参画を得て、(財)京都市景観・まちづくりセンターをはじめとする構成団体との共催によるシンポジウムの開催や寺社を会場としたセミナーの開催など、京都創生の取組を推進するための活動が展開されています。

今後とも、京都創生推進フォーラムへの参加者を募り、京都創生の取組をさらに進めていくことで、日本の財産そして世界の宝である京都の魅力に磨きをかけていきたいと思っております。是非、皆さんのご参加とご支援をお願いいたします。

京都市総合企画局京都創生推進室

TEL 075-222-3375

FAX 075-212-2902

<http://www.city.kyoto.jp/sogo/sousei/index.html>

京都創生推進フォーラム

<http://hellokcb.or.jp/sousei/index.html>

京町家の保全・再生の事例

京の路地、今日も日々是好日

「三上家路地からの出発」(上京区)

賑わいのある今出川通から大宮通を北へ上がり、また一つ通りを西へ進むと、懐かしく落ち着いた路地空間が現れます。今回ご紹介する三上家路地です。

三上家路地には、かつて西陣織が盛んに行われたこの界わいで職人さんが生活を営んだ町家が装いそのままにたたずんでいます。ここにはまた、かつてと同じようにそこへ住む人と人とのつながりが息づいています。



三上家路地

三上家の所有する町家には、町家に魅せられ創作活動を行う作家さんやお店屋さんなど、それぞれが仲良く個々の生活を大事にお住まいされています。そこへ新しく町家の住人として加わった方々がいらっしゃいます。新たな商品開発を目指すウィズアンドフォア株式会社さん、建築設計事務所の株式会社ローバー都市建築事務所さんです。

「今までのネットワークや人脈を生かして、地域に役立つ仕事がしたい。事業者も多く生活者が多い西陣で、何か地域の活性化になる仕事ができないだろうか」。そう考えられたのは、ウィズアンドフォアさんです。

もともと商社でお勤めをされていたウィズアンドフォアの前田さんは、この思いを胸にパートナーの伊木さんとお二人で活動の拠点をお探しでした。西陣を拠点にと色々物件を求めていたところ、西陣の町家倶楽部ネット

ウィズアンドフォア株式会社
前田さん、伊木さん

ワークさんに出会い、ご縁あってこの場所にたどりついたそうです。

現在、瓦の吸水性・透水性の良さに注目したりサイクル商品の販売支援をはじめ、地域のニーズ

と企業活動を融合させていく生活感、現場感のある取組を職住の関係性の中で広げようとしています。

拠点となった路地の一角には、昨年11月に改修と内装が整い入居されました。建物は、傷みのある床を全面的に直し、引き戸や建具、天井などはそのままに建物の記憶を残しながら直されています。「西陣に思い入れはあったが、建物については知識がなかった。いずれは元の姿に戻していきたい」と、「まち」や人に対する思いとともに、町家に対する思いも膨らませておられます。

時期を少し遅らせこの春に入居するのは、ローバー都市建築事務所さんです。もともと、京都で育ち西陣織の機織りの音を聞きながら育ったというローバーの野村さん。建築士を志されたのも、大学時代に西陣を離れて再びこの地に戻ったとき、まちの音や風景が変わり行く様を感じ、建築の立場から何かできないかと考えられたことからでした。京都、建築を知る立場で「京都の伝統やデザインを研究して、町家から日本、世界に発信したい」と思いを熱くされています。この町家では研究活動をされ、また成果を実践で生かしていけるそうです。

7年越しの希望が叶い、この町家に入居できるという野村さん。三上家路地は、西陣でものづくりをする人の夢の場所であり、ここで研究活動ができることを大変喜ばれています。ローバーさんの入居のきっかけもウィズアンドフォアさんと同じ町家倶楽部さん。以前から路地にお住まいの方とも面識があったとのことですが、まちや人を大事に思い、家を大切に使用したいと思われる方々が路地の方々とは良いご縁でつながっているようです。



ローバーさんは、ゆくゆくは、路地を訪れた方に中をのぞいてもらえる

よう工夫したいと考えてローバー都市建築事務所 紋屋町研究所おられるようです。改修に当たっては「路地という大事な財産なので今ある良さをうまく引き出す改修を心がけた」とのこと。柱の根継ぎなど、見えない部分も丁寧に補強されました。そして、奥庭部分にあった物置を取り払い、路地側の奥のお庭が見えるよう工夫されています。

西陣の地で事務所、研究室を熱心に探され、まちの人との関わりのなかで三上さんと出会い、この路地の仲間になりました。丁寧な町家暮らし、生き生きとした営みが生まれ、育まれています。

京町家まちづくりファンドによる京町家改修助成モデル事業 進行中 第1号モデル事業が完成しました

センターでは、より多くの京町家を良好な形で次の世代に残していくため、京町家まちづくりファンドの資金を活用し、平成18・19年度に京町家改修助成モデル事業を行います。

この京町家改修助成モデル事業は、京町家の所有者や居住者等の方々が、京町家を維持するとともに、伝統的なデザインの再生・復元、文化発信やまちづくりへの活用などに取

り組まれる場合、主に京町家の外観改修工事費用の2分の1、上限500万円を目安に助成金を交付する事業です。

この度、平成18年度の改修助成モデル事業の対象物件として選定した8件(ニュースレター36・37号で紹介)のうち、4件の改修工事が完了しましたので紹介します。

●中井邸

改修後の京町家は、住居としての利用に加え、管理栄養士の資格を生かして地域向けの料理教室を開くなど、今後、地域での食育活動の拠点として活用されます。



●池内邸

京町家に住み続ける上での課題の一つである駐車場の問題を、京町家の情緒を残しながら解決する一つの新しい方法として、出格子を跳ね上げ式のオーバードアに改造し、建物内の車庫の扉に改修されました。



●(株)ステーション

「be京都」と命名され、京町家の空間を生かした貸教室、貸ギャラリーとして活用されます。



●船鉾町会所

祇園祭に限らず、伝統を守りながら、より地域の活性化にも役立てる場として生かされます。昔の写真をもとに外観を復元されました。



平成17年9月のファンド設立から1年半、ようやく、ファンドの成果が目に見える形となりました。モデル事業を継続的な事業に移行していくためには、基金の拡大が喫緊の課題です。引き続き、市民や企業等の多くの皆様からのご寄付を心からお待ちしております。



インターネットから、 京町家まちづくりファンドへの 寄付及びセンター賛助会員の受付が 可能になりました!

3月14日から京町家まちづくりファンドへの寄付及びセンター賛助会費のwebページからインターネットを経由した受付が可能になりました。カード決済の代行会社を通じ、クレジットカード(VISA、MASTER、JCB、AMEX)による決済を行うものです。従来の京町家まちづくりファンドへの寄付及びセンター賛助会費の受付は、指定金融機関の口座へお振込みいただく方法とセンター窓口へ直接ご持参していただく方法でしか受け入れができませんでした。クレジットカードでの決済が可能になったことで、受入れ方法も増え、銀行振込みの手間などの事務手続も省略できます。賛助会員については、新年度会員から取扱を開始します。

申込手続については、センターホームページURL:<http://machi.hitomachi-kyoto.jp>の「クレジットカードでの決済が可能になりました!」からアクセスしてください。

(カード決済の流れ)

- ①京都市景観・まちづくりセンターのホームページ上の「京町家まちづくりファンドに寄付する」のボタンをクリックする。(センター賛助会費の場合は、「賛助会員になる(個人会員)」または「賛助会員になる(団体会員)」のボタンをクリック)
- ②リンクされた申込画面に進む。
- ③申込口数を入力し、「次へ」をクリックする。
- ④氏名、メールアドレス、住所、電話番号を入力し、「次へ」をクリックする。
- ⑤クレジットカード番号、情報送付の可否、氏名公表の可否を入力し、「次へ」をクリックする。
- ⑥入力情報を画面で確認し、間違いがなければ「申込確定」のボタンをクリックする。
- ⑦寄付者にEメールで受入れの通知が送信される。

なお、ファンドへの寄付の受付と賛助会費の受付は、従来どおり指定金融機関の口座へお振込みいただく方法とセンター窓口へ直接ご持参していただく方法も行っております。

センター事業の充実を図り、京町家の保全・再生・活用の取組を長期的に展開していくためには、皆様のご支援・ご協力が不可欠です。引き続きお力添えいただきますようよろしくお願いいたします。

また、賛助会員向けの「財団法人京都市景観・まちづくりセンターDCゴールドカード」の取扱も始めました。カードの特典は以下のとおりです。お申込みはセンター窓口にてお申出ください。

クレジットカードとセンター賛助会員の特典(巻末参照)のどちらも利用でき、「京町家まちづくりファンド」への募金機能も付いた「財団法人京都市景観・まちづくりセンターDCゴールドカード」に是非ご入会・ご利用ください。

(特典)

- 1 センターのロゴマークを表示した、賛助会員だけのゴールドカードです。
 - 2 賛助会員の皆さんのカード年会費は無料です。初年度だけでなく、次年度以降も無料です。
 - 3 賛助会費は本カードにて毎年5月に自動引落としていたします。(新規カード会員の方は申込日の翌月又は翌々月に引落としていたします)賛助会費の自動引落としにより、銀行振込みの手間が省けます。
 - 4 カードご利用金額の0.2%が「京町家まちづくりファンド」の募金に充てられます。
 - 5 海外旅行傷害保険が自動加入となっています。
- その他、ゴールドカードならではの多彩なサービスをご用意しています。



クレジットカード

ご注意

賛助会員が会員の資格を喪失した場合(会費の入金が確認できない場合等)や退会の申出があった場合は、カードをご返却いただきますので、あらかじめご了承ください。

▼ 京町家情報コーナー 最新ニュース!!

「ひと・まち交流館 京都」地下1階に常設している京町家情報コーナーでは、京町家に関わる市民団体・職能団体の活動紹介、京町家最新ニュースの掲示、京町家模型の展示などを行っています。京町家に関する各種情報を分かりやすく皆様にお伝えしています。

◎「実物大はしごフレーム模型」がやってきました。

京町家専門相談員の木村棟梁から実物大のはしごフレーム模型(仕口ダンパー付)を寄贈していただきました。はしごフレームと仕口ダンパーは、町家の耐震補強の手法の一つとして活用されているものです。皆様ご参考には是非ご覧ください。



◎学生の皆さんの情報発信の場として企画展示コーナーを開設しました。

平成18年10月から学生の皆さんとセンターの共同企画により学生の取組成果を発表する企画展示を始めました。京町家や地域まちづくりをキーワードとしたワークショップ・イベントの取組内容の発表や、提案物の展示の場として利用してもらっています。



センターでは様々な人達が交流していますが、その中で、京町家情報コーナーもできるだけ幅広い、新しい情報を皆さん

にお伝えしたいと思っています。

これまでに展示してきた市民活動団体、職能団体、行政関係情報に新しい情報発信源を加えることで、より充実した情報発信の場を目指します。

これまでの展示作品の紹介

まちコラ合宿 まっちワークグループ早稲田・都ライト合同ワークショップ展

【主催団体：ANEWAL Gallery】

平成18年8月に行った京都の「通り」をコラージュによって表現したワークショップの成果物発表

稲荷学区型住宅展—地区のかたちが、創る新しい風景—

【主催団体：京都CDL】

対象の地区にふさわしい住まいの形を考える即日設計競技「ミテキテツクッテ—稲荷学区編」での制作物展示

マサチューセッツ工科大学・京都造形芸術大学合同ワークショップ展

【主催団体：京都造形芸術大学】

平成18年7月に明倫学区で行った京都のまちなみにふさわしい建築、まちなみを提案したワークショップの成果物発表

*企画展示希望者募集

京町家や地域まちづくりについて取り組んでいる学生の皆さん、作品・研究発表の場として京町家情報コーナーを是非ご利用ください。展示方法や期間など、ご相談はいつでも伺いますのでご連絡ください。

「京都まちなかこだわり住宅」 モデル住宅がオープンします!!

ニュースレター35・37号でもご紹介しました「京都まちなかこだわり住宅」が、いよいよ完成します。

12月23日、24日の2日間、「上棟見学会」を開催し約90名の方が参加され、モデル住宅の概ねの空間構成を体感されていました。来訪者のアンケート調査では、29名が回答され、本取組について「京都にこだわった取組だ」、「構造や施工の確かさを感じた」という感想が半数近く寄せられました。

現在、4月のオープンに向けて準備が進められています。設計コンペのアイデアに加え、構造材及び内装の仕上げ材に北山杉を採用し、インテリアには京都の職人による京焼のタイルや漆、金物、和紙、リサイクル建具などが採用され、京都の技術と多くの職人の思いがぎっしり詰まったモデル住宅となっています。

モデル住宅オープン後は、「京都まちなかこだわり住宅」作りに携わった皆さんをゲストに招いた学習会を開催するとともに、「京都まちなかこだわり住宅」の普及に向けた情報発信拠点として活用されます。



北山杉を使った柱。遊び心をくすぐります

※本コンペの経過や詳細については、「京都まちなかこだわり住宅」設計コンペ報告集に掲載しております。センター窓口で販売しておりますので、お問い合わせください(頒価1,000円)

※モデル住宅に関するお問い合わせは、センター、都市居住推進研究会、もしくは事業主である株式会社建都住宅販売にお尋ねください。

平成18年度景観・まちづくり大学 学生まちづくりセミナーを開催しました!!

今年度の学生まちづくりセミナーは、学生の視点から地域の魅力や課題を発掘し、地域の方々との交流も深めながら、今後のまちづくりに生かせる魅力的な提案をしてもらうとともに、学生が、実地でまちづくりの提案に必要なスキルを学ぶ場となるよう企画しました。

フィールドには下京区の修徳学区を選び、修徳まちづくり委員会にご協力いただきました。講師は修徳学区のまちづくりに長く関わってこられた三菱UFJリサーチ&コンサルティングの善積康子さんをお願いしました。

セミナーは全5回で、1回目は地域の基礎情報を提供するために、まず、京都市から職住共存地区のまちづくりについてレクチャーがあり、続いて、修徳まちづくり委員長の小西宏之さんから修徳学区のまちづくりについてレクチャーがありました。また、その情報をもとに修徳学区の課題やまちづくりのテーマについて学生が2つのグループに分かれて議論しました。

2回目はグループごとにまち歩きを行い、その後、地図をもとに地域の魅力や課題などまちの現状把握を行うとともに、提案の方向性について意見交換を行いました。3回目は地域で生活されている方や地域に事務所がある建築士の方などを交え、学生が1回目、2回目のセミナーで見聞きし、考えた修徳学区の現状や課題、今後の取組などについて意見交換を行いました。4回目はこれまでの議論を踏まえての最終提案づくりを行いました。

そして、平成19年2月2日に、最終回を開催しました。A班、B班の2グループに分かれて、地域の方にまちづくりのプランを提案しました。

A班の提案は、①インターネットのソーシャルネットワークサービス内に修徳コーナーを設置し、若者や新たな住民との交流の促進を図る。②花を通して修徳を彩りつつ交流を増やす。③現在の小学校区全体での祭りを通して幅広い交流を増やす、というもので、交流をテーマに地域にとって比較的に取り組みやすい提案を組み合わせたものでした。B班の提案は、詳しい現状分析から積み上げられたもので、「子は修徳のかすがいプラン」と題し、松原商店街での子どもの就業体験を軸にしたものでした。提案に対しては、参加した地域の方や、専門家の方から多くの質問が寄せられ、その一つひとつに学生が答えました。



全5回の講座は盛りだくさんで、講師の善積さんの指導の下、学生それぞれがまちづくりのスキルを身に付けることができましたと思います。参加した学生たちがセミナー以外でも提案づくりのため自主的に集まり、議論や作業をする姿が見られ、若いエネルギーが地域に向けられました。

今回のセミナーをきっかけとした学生と地域の関係が、花開くことを期待しています。

～住みごこのよい住環境を守りたい～ 地区計画の策定に向けて

西竹の里町テラスハウス自治会(西京区大原野)

(地区計画策定の要望書を提出しました)

平成18年12月11日、西竹の里町テラスハウス自治会は、京都市に対し地区計画策定の要望書を提出しました。計画案の主な内容は、建物の高さを10m以下とすること、建物の用途を住宅や小規模店舗に限定すること、敷地の最低規模を85㎡とすることの三つです。

センターでは、取組当初より、職員による相談や専門家の派遣など、活動支援を行ってきました。そのご報告を兼ねて、西竹の里町テラスハウス自治会の取組をご紹介します。

(近隣のマンション立地をきっかけに地域のルールづくりへ)

西竹の里町テラスハウスは、洛西ニュータウンの一角、大蛇ヶ池の西に位置するまちで、250戸程度の2階建てのテラスハウスが建ち並ぶ閑静な住宅地です。昭和50年代後半に建設されたまちは、およそ30年を経て建て替えられる住宅も徐々に増えてきています。

そんな中、地域に隣接する場所で始まった7階建てのマンション建設で、地域に衝撃が走ります。この地域は、第1種中高層住居専用地域に指定されており、高さは20mまで建

てられ、指定容積率も300%でした。現況は2階建てが中心ですが、すぐ隣に7階建てのマンションが建つ可能性もあることに、この時はじめて気付かれた方も多かったようです。

「現在の住環境を守るには、自分達でルールをつくらなければならない」。平成16年4月、西竹の里町テラスハウス自治会は、住環境を守るためのルールづくりに着手しました。およそ3年の時をかけて、今般の要望書の提出となりました。



2戸建てのテラスハウスのまちなみ

(現在、地区計画策定に向け手続中)

今回の取組は、合意形成に向けた取組の丁寧さが大きな特徴点だといえるのですが、これについては次号でご紹介したいと思います。現在京都市では、要望書を受けて策定への手続を進めているところです。次号が出るころには、策定されているのではと期待しています。

～地域の生活を支える魅力ある商店街であり続けるために～

なやまち住まい交流会

伏見区の納屋町商店街(パッサージュなやまち5番街)では、平成18年春から「なやまち住まい交流会」を開催しています。この取組は、地域に新しく建ったマンションの入居者や周辺住民の方々と商店主が交流することで、これから一緒に納屋町商店街を盛り上げていくことを目的としています。



落語の後の意見交換会(第1回)

第1回は平成18年5月に開催され、落語家を招いて伏見にゆかりの「三十石」を聞くとともに、納屋町地区の歴史についてのお話がありました。その後、参加者同士で料理を囲んで交流を深めました。第2回は同9月に開催され、御香宮神社の宮司さんにお越しいただいて、地域で古くから行われているお祭り「御香宮神幸祭」についてお話いただきました。

第3回は平成19年2月17日に開催され、月桂冠大倉記念館の打越文雄館長さんから「日本酒ほろ酔い健康法」と題し、伏見の地下水と日本酒の関係や健康的な飲酒の方法などのお話をいただきました。また、新酒の季節であることから利き酒会も行われ、おいしいお酒をいただきながら交流を深めました。



日本酒の利き酒会(第3回)

納屋町商店街は明治42年に「納屋町進商会」として創立、翌43年には全国初の鉄柱アーチ型アーケードを完成させるなど、個店の努力と時代を先取りする取組により、伏見の賑わいを支えてきました。現在、納屋町商店街では交流会とともに「納屋町商店街地区まちづくり委員会」が中心となって、紳士協定である「まちづくり憲章」や都市計画法に基づく「地区計画」の策定など、今後も地域の生活利便機能を担い続ける魅力ある商店街として維持・発展するための取組を進めています。

「今後の京町家の保全・再生のあり方検討会」 取組状況経過報告

「今後の京町家の保全・再生のあり方検討会」は、市民活動団体・職能団体・学識経験者・行政各部署との連携を図りつつ、京都全体として京町家の保全・再生の方向性を共有する情報交換等を継続するため平成17年1月に設置し、情報交換を継続しています。

現在、京町家の保全・再生に取り組む多種多様な活動が、市民活動団体や職能団体、行政などで進められている中、今後の京町家の保全・再生に関して実効性の高い方策やパートナーシップによる新たなアクションプラン案の検討を念頭に、当検討会を軸にした地域での積極的な京町家に関する情報提供の

ためのパンフレット作成や京町家を支える仕組みの構築に向けて作業を進めています。

この間、各団体に関わる新たな取組も様々な進行してきました。京町家不動産証券化事業の実施（ニュースレター第36号p.6で紹介）、京町家専門小委員会での取組の展開（社）京都府宅地建物取引業協会）、リーフレット「京町家の智慧本」の作成と相談窓口の整備（京町家居住支援者会議）などです。各主体の専門性を生かした取組が、より多くの京町家の保全・再生につながっていくように、センターも情報発信等を通じてお手伝いしていきたいと思っております。



平成18年度賛助会員 敬称略（五十音順）

H19年2月末現在

【個人】

秋山 正俊	上原 任	笠岡 英次	酒井 英一	高橋 修	中島 吾郎	吹上 裕久	村田 清
朝倉 真一	上原 智子	桂 豊	坂根 正樹	高谷 基彦	中島 弘益	福島 邦夫	毛利 信二
浅野 保夫	梅津 章子	門川信一郎	坂本 登	瀧本 章	中島 康雄	福島 健一	森 清
芦田 英機	江草 哲史	門川 大作	坂本 正寿	武居 桂	中谷 弘	福島 貞道	山本 一博
荒金 博美	江籠 義貞	亀井 孝郎	佐倉 正光	多田 吉宏	中司さゆり	福島 信夫	山本 一馬
石崎 了	江田 頼宣	川上 輝夫	佐竹 和男	田中 照人	中村 忠夫	福島 正俊	山本 耕治
石田 達	大島 仁	川口 東嶺	佐藤 洋	田中 行夫	中村 豊	藤本 春治	山本 茂
石田 光曠	大谷 孝彦	川口 浩	佐藤 友一	田中 良平	中山 稔	古川 幸隆	山本 七重
石原 一彦	岡崎 篤行	上林 研二	塩谷 孝雄	田辺 鈴賀	西澤 亨	平家 直美	湯浅 博央
石村 陸貴	岡野 哲也	上林 隆	島崎 耕一	田辺 真人	西島 篤行	星川 茂一	吉田 香
石本 智子	岡本 晋	岸田里佳子	清水 博之	谷口 進	西田 祐司	細川 義明	吉田真由美
石本 幸良	岡本 秀巳	北川 洋一	白須 正	寺田 恵子	野村 正樹	本田 拓央	善積 秀次
糸井 恒夫	岡山 尚義	北村 信幸	城本 邦彦	寺田 敏紀	朴 勝俊	本田 徹	淀野 実
稲石 勝之	小川 信行	木村 茂和	新喜 富雄	寺田 史子	畑中 政治	正木 敦士	脇山 芳和
犬伏 真	奥 美里	木村 忠紀	寿崎かすみ	寺本 健三	馬場 美彦	松田 彰	
今井 弘美	奥園 俊夫	木村 裕	鈴木 知史	戸所 泰子	早崎 真魚	松村 光洋	その他14名
今富 僚二	奥山 脩二	桐澤 孝男	鈴木 正和	富江 保	林 建志	松本 正	の皆様
岩城千恵子	押谷 昌成	金辻 俊一	園 孝裕	内藤 郁子	林 幹夫	馬屋原 宏	
上飯屋 尚	小山 選一	桑江 利彦	高川 祐子	長井 典子	平竹 洋子	宮本 陽子	
上野 明彦	影近 晴治	齊藤 修一	高木 伸人	中川 慶子	深井颯一郎	宮脇 基良	

【団体】

NPO法人 京滋マンション管理対策協議会
NPO法人 マンションセンター京都
大阪ガス株式会社近畿圏室
オムロン株式会社
株式会社地域計画建築研究所
株式会社フラットエージェンシー
株式会社ジェイアール西日本伊勢丹

株式会社ゼロ・コーポレーション
京都駅ビル開発株式会社
佐川急便株式会社
社団法人 京都府建築士事務所協会
有限責任中間法人 京都不動産投資顧問業協会
渡文株式会社

私と京都



(財)京都市景観・まちづくり
センター理事・服飾評論家

市田 ひろみ

「もしも私が京都の 人でなかったら」

「京都のどのへんに住んでるんですか？」

「修学旅行で行ったきりなので、今日の先生の京都弁を聞いて、今すぐ又行きたくなりました。・・・」

「京都って良いですねえー」

私が京都の人と知ると、大抵の人は、記憶の中にある京都をさぐりながら話してくれる。私の講演は全国

に渡っているが、やはり東北・北海道・九州・沖縄の人からすれば京都は遠い。

遠い程、京都に対する思いは深いのだろう。私はきもの着装教育にたずさわって42年になる。

着物の着付け方や帯の結び方を指導するために全国のデパートや呉服屋さんをまわっていたが、やがて、染織工芸の語り部となってゆく。きものや帯というより染織工芸のすべては京都にいたから学ぶことが出来た。京都の伝統工芸の多くは分業で成り立っている。生涯かけてひとすじの道をゆく、職人達の技によって成り立っている。

私は身近にいる友人、知人から多くのものを学んだ。昭和42年(1967年)関西テレビ発の全国ネット「ハイ土曜日です」というワイドショーで、日本で始めて着付けのプロセスや帯結びのプロセスをさせてもらった。ようやく私も又ひとすじの道があることになる。

今ではきもの研究から世界の民族衣装にひろがり、百ヶ国を超える国のさまざまな民族の固有の服を蒐集研究している。

いずれも6ヶ月、10ヶ月もかかっ

て刺繍したり、アップリケをしたり、織ったり、女達は伝統の文化を丹念に美しいもようにして表現する。自分達の服に寄せる思いは深い。

それぞれの民族に独自の美意識が宿っている。まさに民族衣装はその民族の固有の文化の集約だ。

私の京都住まいも60年を越えた。私達の家は中京の京町家だった。昭和40年代に町内の格子の家並は急速に失われた。我が家も建て替える時におくどさんもはしりも格子も失った。

今、私は自分の夢だった京町家を建築している。もうすぐ完成する。和の文化を愛する人達の集まる場所にしたいとねがっている。

日本の文化といえば京都の文化だ。私は京都に暮らし、有形・無形の恩恵を受けた。もしも、私が京都の人でなかったらこれだけの信頼を得ただろうか。どれだけの人が、京都に暮らす恩恵を感じているだろうか。無言で伝わって来た暮らしの中の美意識を大切にしたいと思っている。



【京町家キット】

センター窓口で販売を開始した京町家組み立て式模型「みにちゅあーとキット」。販売の収益金は「京町家まちづくりファンド」への募金に充てています。今回、このキットを制作された「榎さんけい」さんにお話を伺いました。

■制作するきっかけ

博物館展示模型の受注制作を行っていますが、この技術を一般の方にも身近に楽しんでもらえないかと思っていました。しかし、精巧に作り込む展示模型と一般の商品とは余りにも違い、具体化できませんでした。

センター展示施設「京のまちかど」の模型を制作したとき、江戸時代のまちなみを作りながら、「この町家模型は来館の記念に良いのでは」と思っていました。あのときの思いがキット誕生のきっかけのように思います。手のひらに乗る手ごろな大きさ。でも決しておもちゃではなく、

きちんと作り込まれている本物。このキットは、センターの模型作りの時に芽生えていたともいえますね。

■開発秘話

和の建築模型パーツのサンプルを制作したとき、紙素材の虫籠窓(むしこまど)があり、他の部分も同じ紙でできないかと考え、具体的な開発が始まりました。

精巧な建築模型にするため、建物の質感や作りやすさなどを考慮し、試作を繰り返してようやく今の形になりました。

■今後の展開

大店(おおだな)を発売したのをはじめ、蔵(3月発売)、二軒長屋や路店付き町家など企画中です。オプションパーツを組み合わせるとオリジナルのまちなみを作って楽しんでいただけたらいいですね。

洋館シリーズも発売予定です。町家などと共に歴史を伝え、人を惹きつける魅力を持っています。きちんと残し伝えていくお手伝いができればうれしいです。

センター語録

大阪生まれの大阪育ちで、大学受験では振られてしまった「京都」。関西に限り一度は「京都」という思いが通じたのか、昨年4月からまちづくりコーディネーターとしてセンターに勤務するようになりました。

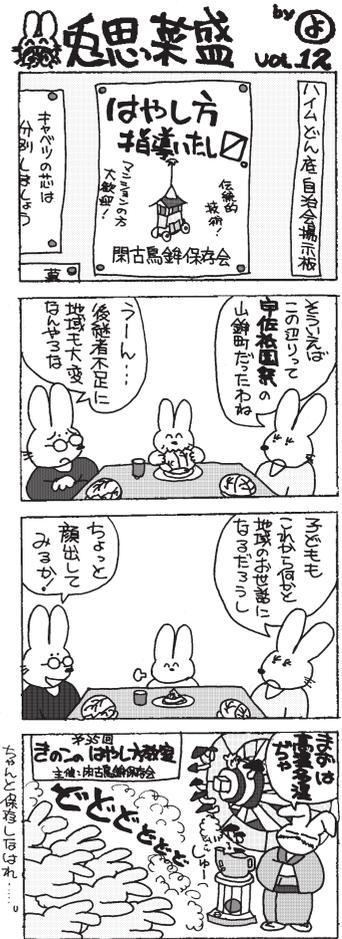
しかし、新天地「京都」は予想以上に厳しいスタートになりました。聞いたこともない複雑な通り名が会話の中でテンポ良く飛び交う中、とりあえずその場をしのいで、後でこっそり住宅地図を開くことも。また、京都の洗礼も受けました。「あれ、大阪在住ということは京都に税金払ってないの？なのに京都でまちづくり？」正直この言葉はきつかったです。でも、約1年間、誠心誠意、無我夢中でまちづくりのお手伝いを続けてきた結果として「来年もいるの？どこにもいかないよね」という何気ない言葉

をいただけたときは目頭が熱くなりました。このご褒美こそ、まちづくりの醍醐味と思っています。

「まちづくり」という言葉は、もともと建築畑であったこともあり、ハード整備事業のイメージが強かったのですが、このような経験を通じて、お馴染みの「まちづくりはひとづくり」という言葉の持つ意味を日々肌で感じています。

センター卒業後は大学の先生を目指しており、今後、教育に携わっていく者として非常に貴重な経験をさせていただいていると思っています。これからもこの恩に報いるべく、京都のまちづくりに励みながら一人でも多くの京都人の笑顔に出会えるよう頑張りたいと思っています。

(景観・まちづくりセンター事務局 N・K)



センターからのお知らせ

京都市景観・まちづくりセンターホームページ

<http://machi.hitomachi-kyoto.jp>

センターの取組内容をはじめ、まちづくりに関する様々な情報を発信するホームページ。

皆さんの地域のイベント情報、まちづくり情報も掲載します。メールマガジンの登録も受付中です。



センター活動拠点のご案内

京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1 (河原町五条下る東側)

「ひと・まち交流館 京都」地下1階

TEL 075-354-8701

FAX 075-354-8704

e-mail : machi.info@hitomachi-kyoto.jp

●開館日 (相談の受付等)

9:00～21:30 (月曜日～土曜日)

9:00～17:00 (日曜日・祝日)

●休館日

毎月第3火曜日 (国民の祝日に当たるときは翌日)

年末年始 (12月29日～1月4日)

なお、センターへのお越しの際は公共交通機関をご利用ください。



平成19年度の賛助会員を募集しています。京都のまちづくりに貢献したい！センターの活動を応援したい！そんなあなたの熱意をお待ちしています。

【特典】

- ・ニュースレター (年4回・季刊) の送付
 - ・冊子等センター発行物の割引
 - ・ニュースレターでの活動紹介
 - ・シンポジウム、セミナー等への優待
- 賛助会員の方は、景観・まちづくり大学のすべてのセミナーを無料で受講できます。(賛助団体の方はひとつのセミナーで3人まで受講可)

【年会費】

個人1口：5千円 団体1口：5万円

まちづくりフレンズの募集

地域のまちづくりに関する各種イベントや啓発・学習活動にボランティア・スタッフとして参加していただける方を募集・登録しています。